

ぼうけん



お子さんの興味や行動範囲の広がりに合わせて、登場人物と一緒に楽しみましょう。

★自分のことをわかってくれる人がいるって素敵です

どろんこハリー

ハリーは黒いぶちのある白い犬です。お風呂が大嫌い、体を洗うブラシを庭に埋めて外に遊びに行きました。泥やすずで汚れ、白いぶちの黒い犬になったハリーが帰ると、家の人はハリーだとわかりませんでした。がっかりしたハリーが庭からブラシを掘り出し、自分からお風呂に駆け込みます。「ハリーだ!」わかってもらえて、安心するハリーでした。

●ジーン・ジョン／ぶん マーガレット・ブロイ・グレアム／え わたなべ しげお／やく
●福音館書店／1,296円



★11匹のねこたちと大きな魚の奮闘が愉快な絵本

11ぴきのねこ

11匹ののらねこは、いつもおなかをぺこぺこでした。山の向こうの湖に怪物のように大きい魚が住んでいると聞いて、さっそく出かけます。始めは全く歯が立ちませんでしたが、とうとう魚をつかまえます。食べるのをがまんして、帰ってみんなに見せるはずでしたが…。愉快で憎めないねこたちの活躍に大笑いです。

●馬場 のぼる／作 ●こぐま社／1,296円



★こすずめと一緒に初めてのぼうけんへ

こすずめのぼうけん

初めて飛び方を知ったこすずめは、外の世界へと飛び出していきましたが、すぐに疲れてしまいました。カラスやヤマバトの巣で休ませてもらうとしますが、仲間じゃないから、と断られてしまいます。くたびれはてたこすずめが、最後に会ったのは?こすずめと一緒に、ハラハラドキドキしてください。

●ルース・エインズワース／作 石井 桃子／訳 堀内 誠一／画 ●福音館書店／972円



★まっ黒なネリノが自分の良さに気づきます

まっくろネリノ

ネリノはまっ黒な小鳥。きれいな色をした4人の兄さんたちから仲間外れにされています。ある日、兄さんたちがつかまって、鳥かごに入れられてしまいますが、ネリノがまっ黒な体を生かして助け出します。それから兄弟いつでも一緒に遊んで、ネリノはもう悲しむことはありませんでした。

●ヘルガ=ガルラー／さく やがわ すみこ／やく ●偕成社／1,080円



★あそびの定番 かくれんぼ

わんぱくだんのかくれんぼ

けんとひろしとくみは、いつもいっしょなので、みんなに「わんぱくだん」と呼ばれています。かしのきこうえんでかくれんぼをしている3人は、おおきなかしのきから、ここには動物が隠れていると教えられます。わんぱくだんは、全員を見つけられるでしょうか?しかけのある楽しい絵本です。

●ゆきの ゆみこ・上野 与志／作 末崎 茂樹／絵
●ひさかたチャイルド／1,080円



★こわーいお話が大好きな子どもにもおすすめ

おいしいのぼうけん

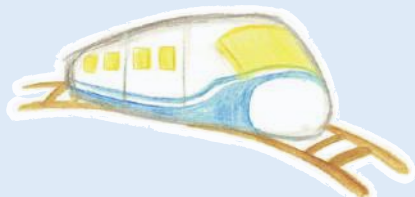
さくらほいくえんにはこわいものが2つあります。1つはおいしい、もう1つは「ねずみばあさん」。お昼寝の時間に騒いださとしとあきは、先生に叱られておいしいに入れられるのですが、何とそこに「ねずみばあさん」が現れて…。大ピンチを切り抜けるため、2人の冒険が始まります。

●ふるた たるひ・たばた せいいち／さく ●童心社／1,404円



のりもの

かっこいい乗り物はいつの時代も人気者。
小さな乗り物が主人公のお話は子どもの共感を呼びます。



★小さなじぶたの大活躍が、子どもの心をとらえます

しょうぼうじどうしゃじぶた

じぶたは古いジープを改造したちびっこ消防車。はしご車ののっぽくんや、高圧車のぱんぶくん、救急車のいちもくさんのように活躍する機会がなく、町の子どもたちから見向きもされません。自分がちびっけに思われて、悲しくなっていたじぶたです。ある日、山小屋で火事起きたという連絡が…。さあ、じぶたの出番です！



●渡辺 茂男／さく 山本 忠敬／え ●福音館書店／972円

★機関車が走る ちゅうちゅう しゅっしゅっ!

いたずらきかんしゃちゅうちゅう

ちゅうちゅうは、お客さんと荷物をのせて、まちからまちへと走る小さな黒い機関車です。ある日、何かをのせて走るのがいやになり、逃げ出しました。ひとりでどんどん走っていきましたが、まわりの人を驚かせ、怒らせてしまうだけ。いたずらもののちゅうちゅうをつかまえようと、みんなが探します。どこにいたかな？



●バーニア・リー・パートン／ぶん・え むらおか はなこ／やく
●福音館書店／1,296円

★ガタゴトー ガタゴトー 次の駅はなに駅？

でんしゃにのって

うららちゃんが電車に乗って、ひとりでおばあちゃんの家に向かいました。すると、わにだ駅ではワニ、くまだ駅ではクマのように、駅名の動物が電車に乗ってきます。次はどんな動物かなというワクワク感、ガタゴトー、ガタゴトーというリズム感、そしてやさしい色合いの絵が楽しい絵本です。

●とよた かずひこ／作・絵 ●アリス館／1,404円



★小さくても前を向いて飛び立ちます

とべ!ちいさいプロペラき

ひこうじょうでは、小さくて新しいプロペラ機が、空へ飛び立つ日を待っていました。そこへ、大きくてりっぱなジェット機がやってきて、プロペラ機は自分の小ささがはげしく、心細くなってしまいます。やがて、初飛行の日がやってきて、深呼吸して滑走路へ向かうプロペラ機。表紙と裏表紙の絵のつながりにも注目です。



●小風 さち／作 山本 忠敬／絵 ●福音館書店／972円

★おとなしくできない、子どもの気持ちに寄り添う本

ガンピーさんのふなあそび

ガンピーさんが川で舟に乗っていると、子どもやウサギやネコたちが「乗せて」と頼みます。ガンピーさんは、「いいとも」と乗せてくれますが、みんなけんかしたり、とんだりはねたりで、ついには舟がひっくり返ってしまいます。それでも穏やかなガンピーさんは、みんなを集めて、何をしたでしょうか。



●ジョン・バーニンガム／さく みつよし なつや／やく ●ほるぶ出版／1,296円

むかしばなし

昔から語り継がれてきたむかしばなしは、子どもが大好きなストーリー展開になっているだけでなく、子どもたちに知ってもらいたい、いろいろなことが含まれています。子どもといっしょにむかしばなしの世界にどうぞ。



★うんとこしょ どっこいしょ くり返しが楽しい1冊

おおきなかぶ

おじいさんが植えたかぶはとてつもなく大きくなりました。おじいさんが抜こうとしましたが、抜けません。おじいさんがおばあさんを、おばあさんが孫を、孫が犬を、犬が猫を、猫がネズミを呼んできて、うんとこしょどっこいしょと引っばると、やっとかぶは抜けました。ロシアの昔話です。



●A.トルストイ／再話 内田 莉莎子／訳 佐藤 忠良／画 ●福音館書店／972円

★迫力ある絵とことばが魅力です

三びきのやぎのがらがらどん

三びきのヤギが山の草場へ行く途中、谷川の橋を渡ろうとすると、橋の下では気味の悪い大きな Troll が待ちかまえていました。小さいヤギと二番目のヤギは「少し待てばぼくよりずっと大きいヤギがくる」と言って切り抜けます。三番目にやってきた大きいヤギのがらがらどんが Troll をこっぴどみにしてくれます。ノルウェーの昔話です。



●マーシャ・ブラウン／え せた ていじ／やく ●福音館書店／1,296円

★あったかてぶくろの中、こんなうちがあったらいいな

てぶくろ

おじいさんが森に落としたてぶくろの中にねずみがかぐりこんで、そこでくらすことにします。すると、かえる、うさぎ、きつねと、次々に「わたしもいれて」とやってきます。動物たちのすてきな家になったてぶくろ。何匹住めるかな!?ウクライナの昔話です。

●エウゲーニー・M・ラチョフ／え うちだ りさこ／やく
●福音館書店／1,080円



★ねずみのすもうのかけ声は、でんかしょ でんかしょ

ねずみのすもう

じいさんが山へ柴刈りに行くと、かわいいかけ声が聞こえてきました。見ると、自分の家のやせねずみと、長老どんの家の太ったねずみが、すもうをとっています。弱いやせねずみのために、じいさんとばあさんは力もちをこしらえます。それを食べたやせねずみは、太ったねずみと互角の勝負。やせねずみがしたお礼とは?



●神沢 利子／文 赤羽 末吉／絵 ●偕成社／1,512円

★「みるな」と言われると、見たくになります

みるなのくら

山の奥に迷いこんだわかものは、大きなやしきにたどりつきました。やしきには十二のくらがあり、あねさまに、最後の十二番目のくらだけはけっして見てはいけないといわれました。十一のくらを見終えたわかものは、どうにもがまんができず、とうとう十二番目のくらを開けてしまうのですが…。



●おざわ としお／再話 赤羽 末吉／画 ●福音館書店／1,404円

たべもの

たくさん食べてどんどん成長する時期です。
大好きな食べ物の絵本を楽しめば、
心も満足できますね。



★子どもが好きな食べ物が次々出てくる楽しいしかけ絵本

はらぺこあおむし

はじめはちっぽけだったはらぺこのあおむしが、くだものやお菓子をどんどん食べ、大きくなってさなぎになり、きれいなチョウチョになります。あおむしが物を食べた跡が穴になっているページを曜日ごとにめくっていくしかけが楽しく、絵は色鮮やかなコラージュが美しい1冊です。



●エリック=カール／さく もり ひさし／やく ●偕成社／1,296円

★うさことおばけのとばけたやり取りが楽しい絵本

おばけのてんぷら

ウサギのうさこがてんぷらを作っていると、山のおばけが、おいしそうなおいにつられてやってきます。たまねぎが目にしみてメガネをはずしたうさこは、小さくなってつまみ食いをしていたおばけが見えず、おばけまでてんぷらにしようします。ちぎり絵の色彩が鮮やかで、こどもも大人もクスツと笑える愉快的絵本です。



●せな いけこ／作・絵 ●ポプラ社／1,296円

★そのいろなあに？

なにをたべてきたの？

おなかですいたしろぶたくん。りんごを見つけて食べると、赤いもようが体に浮かびます。レモンを食べると、黄色いもようもできました。緑色、紫色と、食べたものの色でどんどんカラフルになっていきます。さいごに食べたものが、しろぶたくんを元の白い体にもどしてくれました。なにを食べたと思いますか？

●岸田 衿子／文 長野 博一／絵 ●佼成出版社／1,404円

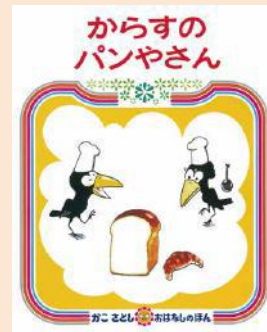


★おいしそうなパンがいっぱい

からすのパンやさん

からすのパン屋さんは4羽の子どもの世話で大忙し。子どものおやつにしていたパンが評判になったことから、子どもの意見を取り入れて、すてきなパンをたくさん作りました。子どもが大勢パン屋に向かうのを見て、大人たちも何事かと駆けつけ、森は大騒ぎ。細かく描かれたたくさんのパン、どれもおいしそう！

●かこ さとし／作・絵 ●偕成社／1,080円



★まっ赤なトマトさんの迫力ある表情に注目!

トマトさん

暑い夏の屋さがり、トマトの木から落ちたトマトさんは、小川で泳ぎたいのに、体が重くて自分では転がっていきません。はじめは強がりを言っていたトマトさんが泣き出すと、虫やトカゲたちが力を合わせてトマトさんを川に落としてくれます。トマトさんはみんなとたっぷり泳いで、おかげで涼しくなりました。



●田中 清代／さく ●福音館書店／972円

★どきどきしたあとはビックリしよう

ハンダのびっくりプレゼント

ハンダは果物をカゴに入れ、頭にのせて、ともだちのいる村へと歩いていました。すると繁みから、さる、だちょう、しまうまと、動物たちが顔をのぞかせ、果物をこっそりと持ち去ります。ハンダは気づきません。とうとうカゴがカラになってしまったとき、びっくりすることがおこります。色鮮やかな絵本です。

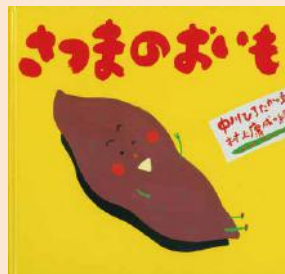


●アイリーン・ブラウン／作 福本 友美子／訳 ●光村教育図書／1,512円

★最後のページで、思わず笑いがこぼれます

さつまのおいも

土の中のおいもたちは、毎日トレーニングをしています。それは、いもほりに来た子どもたちと綱引きをするため。さあ、綱引きの始まりです。おいもチームに勝利した子どもたちは、うれしいやきいもたいかいを開きます。お腹いっぱい食べた後は…。おいもたちの豊かな表情を楽しんでください。



●中川 ひろたか／文 村上 康成／絵 ●童心社／1,404円

こころ・気持ち

子どもたちのやさしさや、いろいろな気持ちの動きに触れてみてください。

★いっしょにハラハラドキドキするおはなしです

ちいさなねこ

ちいさなねこは、おかあさんねこの見ていない間に、ひとりで出かけてしまいました。外は危険がいっぱいです。こどもにつかまりそうになったり、車にひかれそうになったり、ハラハラドキドキの連続です。ちいさなねこは無事家に帰れるのでしょうか。



●石井 桃子／さく 横内 襄／え ●福音館書店／972円

★ちびちびのことをみんな、ずっと大好き

ちびゴリラのちびちび

赤ちゃんゴリラのちびちびが生まれたときから、家族はもちろん、森じゅうの動物たちがちびちびを愛していました。そんなある日、ちびちびが大きくなりはじめます。どんどん大きくなって、立派なゴリラに成長しても、やっぱりみんな変わらずちびちびのことが大好きでした。愛情の確かさがうれしい絵本。



●ルース・ボーンスタイン／さく いわた みみ／やく ●ほるぶ出版／1,350円

★ちゃんとそばで見守っています

ぼくにげちゃうよ

どこか知らないところへ行ってみたくなったこうさぎは、かあさんうさぎに「ぼくにげちゃうよ」と言いました。かあさんうさぎは「おいかけますよ」と言います。こうさぎがどこに行っても、何になっても見つけてそばにいてくれると言うかあさんうさぎ。親子のほほえましいやりとりと、美しいカラーの絵が印象に残ります。



●マーガレット・W・ブラウン／ぶん クレメント・ハード／え いわた みみ／やく ●ほるぶ出版／1,080円

★「どうぞのいす」は、やさしいいす

どうぞのいす

うさぎさんが、ちいさいいすをつくって、おおきな木のそばに置きました。横には、「どうぞのいす」と書かれたたてふだ。はじめにやってきたろばさんは、どんぐりの入ったかごを置いてお昼寝します。寝ている間に、ほかの動物がやってきて、かごの中身がどんどん変わっていき、目を覚ましたろばさんが見つけたのは!?

●香山 美子／作 柿本 幸造／絵 ●ひさかたチャイルド／1,080円



★思いやり ひろがる

そらまめくんのベッド

そらまめくんのたからものは、雲のようにふわふわでやわらかいベッドです。ほかの豆たちが「ねむらせてほしい」とやってきますが、そらまめくんはつかわせようとしません。そんなある日、ベッドがなくなってしまいます。意外なところでベッドを見つけたそらまめくんは、どうしたのでしょうか?

●なかや みわ／さく・え ●福音館書店／972円



★幼い子を見守る母と子の絆の物語

ちいさなヒッポ

カバのヒッポはお母さんといつも一緒。ある日、ヒッポはお母さんにカバの言葉を教わります。「グアオ!」「グアオ!」カバの親子の日常から、幼いヒッポを見守る母の思いやりが伝わる物語です。版画で美しく描かれたカバの親子はとても魅力的で迫力があり、印象に残ります。

●マーシャ=ブラウン／さく うちだ りさこ／やく ●偕成社／1,296円



★こわそうなのに すてきな三にんぐみ!

すてきな三にんぐみ

黒マントに黒い帽子のどろぼう三にんぐみは、夜な夜な盗みを働き、人々に恐れられています。ある夜、三にんぐみは襲った馬車に残された女の子を隠れ家に連れて帰ります。女の子は宝の山を見て、「これどうするの?」と尋ねます。こわ〜い三にんぐみが、すてきなことを考えましたよ! 青い背景に描かれた黒が印象的な絵本です。

●トミー=アンゲラー／さく いまえ よしとも／やく ●偕成社／1,296円



★思いやりの気持ちはいつか返ってきます

ジオジオのかんむり

ジオジオはライオンの中で、いちばん強かったので、冠をかぶっています。卵をすべて奪われて悲しんでいる灰色の鳥と出会ったジオジオは、自分の冠の中で卵を産むようにいました。卵はジオジオに守られ、無事にヒナたちが生まれました。鳥たちとジオジオの交流に、心が温かくなります。

●岸田 衿子／さく 中谷 千代子／え ●福音館書店／972円



★わかりあえる友達との幸せな出会い

くまのコールテンくん

デパートで売られているくまのコールテンくん。女の子が「ほしい」と言いますが、お母さんは「ボタンが一つ取れている」と反対します。夜、コールテンくんはボタンを探し回りますが、見つかりません。翌朝、女の子が貯金を持ってコールテンくんを買いにきました。家でボタンも付けてもらい、二人は友達になりました。

●ドン=フリーマン／さく まつおか きょうこ／やく ●偕成社／1,296円



空想

こんなことがあったら できたらいいな どこまでも広がる世界です。



★ララン ロロロ わたしに にあうかしら

わたしのワンピース

空から落ちてきた真っ白な布きれで、ウサギがワンピースを作ります。お花畑を散歩すると、ワンピースがお花模様になりました。雨が降れば水玉模様、小麦畑を通ると草の実模様に。草の実を食べに小鳥がやってくると、小鳥模様のワンピースを着たウサギは空を飛びます。ウサギがロずさむラランロロロというリズムに乗って、楽しい世界が広がります。

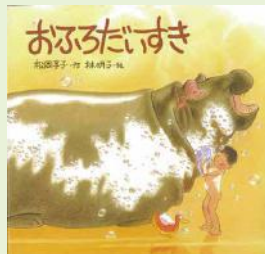


●にしまさ かやこ／えとぶん ●こぐま社／1,188円

★ぼく、おふろだいすき。きみはどう？

おふろだいすき

あひるのプッカと一緒におふろに入ったぼく。プッカがお湯にもぐったら、亀を見つけました。それから、ペンギン、オットセイ、かば、くじらが、ぼくのおふろにやってきます。水の生き物といっしょに入るおふろは、とってもにぎやか。こんなおふろなら、ずっと入っていたくなりますね。



●松岡 享子／作 林 明子／絵 ●福音館書店／1,404円

★ぼくをたべると、どうなる？ こうなる！

キャベツくん

キャベツくんが歩いていると、ブタヤマさんに会いました。お腹がすいているブタヤマさんはキャベツくんを捕まえます。「ぼくをたべると、キャベツになるよ！」キャベツくんがそう言うと、鼻がキャベツになったブタヤマさんの姿が空に浮かびます。黄色がメインの背景に、緑色のキャベツがよく映えて目をひきます。



●長 新太／文・絵 ●文研出版／1,404円

★空色の種から生えるのは、植物ではありません

そらいろのたね

ゆうじはたからものの模型飛行機を、きつねの持っていた空色の種と交換することになりました。まいて水をやると、土の中から空色の家が出てきました。家はどんどん大きくなり、町中の子どもたちや森中の動物たちが入れるほどの立派な家になりました。そこへきつねがやってきて…。



●なかかわ りえこ／さく おおむら ゆりこ／え ●福音館書店／972円

★描いた絵が、お話になっていきます

はろるとむらさきのくれよん

月夜の散歩がしたくなったはろろどが、むらさきのくれよんで、月と道を描きました。道を行くと、森があったのでりんごの木を描きました。はろろどが描いていく絵が、お話になっていく絵本です。子どもは、絵を描くのが大好きです。自分の描いた絵が次々と本当になっていく、そんな夢がかなう絵本です。



●クロケット・ジョンソン／作 岸田 衿子／訳 ●文化出版局／922円

★もりのなかは楽しいところ

もりのなか

紙のぼうしをかぶり、あたらしいらっぱをもって、森の中へさんぽにいこう。男の子が歩いていると、ライオンやくまやぞうや、たくさんの動物と出会う、みんながさんぽにつけてきます。それから、ごちそうを食べてかくれんぼをしました。男の子の小さなぼうしのおはなしです。



●マリー・ホール・エッツ／ぶん・え まさき りこ／やく ●福音館書店／1,080円

体験・生活

自分でできることが増え、周りの世界に興味広がります。

★できないことはあるけど、のびのび成長していきます

はけたよはけたよ

たつくんは、一人でパンツがはけません。パンツをはかずに外に出たら動物たちに「しっぽがない」と笑われます。家に帰って、もう一度パンツをはこうとしても、やっぱり、失敗してひっくり返ってしまいました。そこで、しりもちをついたままはいてみたら、あらら、パンツもズボンも上手にはけたよ。

●かんざわ としこ／ぶん にしまき かやこ／え ●偕成社／1,080円



★おやすみなさい、よい夢を

おやすみなさい コッコさん

みんなが眠りについた夜、ひとりだけ眠らない子どもがいました。コッコさんです。おつきさまが「さかなもとりもねむったよ」と声をかけますが、コッコさんは「ねむらないもん」と返事をします。そうしてがんばっていたコッコさんですが、そのうちに…。やさしく眠りに誘う絵本です。

●片山 健／さく・え ●福音館書店／972円



★はをみがこう!

わにさんどきっ はいしゃさんどきっ

歯医者さんが嫌いなワニさんが、いやいや虫歯の治療に行きました。そこには、ワニを怖がる歯医者さんがいました。おたがいにくびくびしながら、虫歯の治療が始まります。はてさて治療は無事に終わるのでしょうか。ワニさんと歯医者さんが、同じことを思っているのがおもしろい、クスツと笑える絵本です。

●五味 太郎／作 ●偕成社／1,080円



★ぞうくんたちと一緒にゆったりおさんぽしましょう

ぞうくんのさんぽ

天気の良い日、ぞうくんがさんぽに出かけると、かばくんに会います。さんぽに誘うと「背中に乗せてくれるならいいよ」と言われ、かばくンを乗せてさんぽします。次にわにくん、かめくんにも会い、順番に背中に乗せていきます。重くなったぞうくんが倒れると、みんな池の中にどぼーん! 楽しい水遊びがはじまりました。

●なかの ひろたか／さく・え なかの まさたか／レタリング

●福音館書店／972円



★最後のかなえの笑顔に、あなたもきっと、にっこり

とん ことり

かなえは新しいまちに引っ越してきました。お父さんとお母さんは荷物の整理で忙しそう。すると、とんことり、と、郵便受けから音がしました。外を見ても誰もいません。次の日も、また次の日も。とんことり。この音の正体は? 新しい土地で落ち着かないかなえの心情とその気持ちが動いていく様子が丁寧に描かれています。

●筒井 頼子／さく 林 明子／え ●福音館書店／972円



★しょんぼりしていたぐるんばが役に立てるうれしさ

ぐるんばのようちえん

一人ぼっちのゾウのぐるんばが働きに出ました。ビスケット屋さんで、はりきって特大ビスケットを作りますが、誰も買ってくれません。「もう けっこう」と言われて、お血屋さん、靴屋さん、ピアノ工場などで働きますが、どれも大きすぎて…。でも、子どもさんのお母さんに子どもの遊び相手を頼まれて、幼稚園を開くとみんなに喜ばれます。

●西内 ミナミ／さく 堀内 誠一／え ●福音館書店／972円

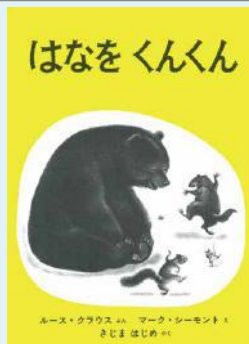


★冬ごもりから目覚めた動物たちがぐんぐん。何だろう？

はなをくんくん

雪深い森の中。冬ごもりをしていた動物たちが目覚めます。そして、はなをくんくん、においに気づき、いっせいに走り出します。ある場所で、みんなが止まりました。そして、笑い、踊り出します。着いたところには何があるのでしょうか。やさしいモノトーンで描かれた最後のページに驚きがあります。

●ルース・クラウス／ぶん マーク・シーモント／え きじま はじめ／やく
●福音館書店／1,188円



★初めての経験への不安感が伝わってきます

はじめてのおるすばん

3歳のみほちゃんは、初めてママにお留守番を頼まれます。玄関のチャイムが鳴って郵便屋さんや新聞の集金が来るたびに、みほちゃんは怖いのを我慢してがんばりますが、もうダメだと思ったその時、ママが帰ってきます。みほちゃんの不安や、お留守番ができたという達成感に共感できます。

●しみず みちを／作 山本 まつ子／絵 ●岩崎書店／1,188円



★みいちゃんががんばれ!

はじめてのおつかい

5歳の女の子みいちゃんは、ある日、ママから赤ちゃんの牛乳を買ってきてと頼まれます。はじめてのひとりでのおつかいは、途中の坂で転んでお金を落としたり、お店のおばさんに気づいてもらえなかったりと、どきどきすることばかり起ります。それでも、みいちゃんは何とかおつかいをやりとげようと一生懸命です。

●筒井 頼子／さく 林 明子／え ●福音館書店／972円



たのしいおはなし

ストーリーのある物語を
楽しめるようになってきます。
おはなしの世界を、存分に
味わってください。



★いっしょに食べたくくなります

ぐりとぐら

お料理することと食べることがいちばん好きな、野ネズミのぐりとぐらは、木の実を拾いに入った森で、大きなたまごを見つけました。目玉焼きを作ろうか、ふわふわのたまごやきにしようか。大きなフライパンを用意してふたりが作ったのは…長く読み継がれている、おいしいおはなしです。

●なかがわりえこ／さく おおむら ゆりこ／え ●福音館書店／972円



★はだかんぼになっておふろにはいろう

そらはだかんぼ!

おふろの時間です。「はだかんぼになりなさい」とおかあさんがいいました。ライオンくんは服をきていません。何をぬげばよいのでしょうか? いえいえ、ライオンくんは、すぽとがばっとぬぎはじめましたよ。ひとりでぬげるかな?

●五味 太郎／作 ●偕成社／1,080円



★日照り続きの大地。やかんたちが大集合!

もくもくやかん

何日も雨が降らず、大地は干上がって、カラカラ。そこに、やかん、ポット、じょうろ、きゅうすが集合します。いっせいに息を吸って、とめて、ためて、出して。「す〜う〜、うっ、むんっ、ぷしゅ〜」もくもくもく〜。大きな雨雲が現れました。大地に恵みの雨が振るのでしょうか?やかんたちのユーモラスな姿がたまりません。

●かがくい ひろし/作 ●講談社/1,620円



★どんどん大きな動物がチョコッキを着るのにハラハラ

ねずみくんのチョコッキ

ねずみくんはおかあさんが編んでくれた赤いチョコッキがご自慢です。そこへアヒルが「いいチョコッキだねちよっと着せてよ」とやってきます。チョコッキは、サル、アシカ、ライオン、ウマに次々貸されて、とうとうゾウまで。すっかり伸びてしまったチョコッキにねずみくんはがっかりしますが…。白黒の画面に赤いチョコッキが印象的です。

●なかえ よしを/作 上野 紀子/絵 ●ポプラ社/1,080円



★しりとり大好きな王様VS悩める家来

しりとりのだいすきなおうさま

しりとり大好きな王様は、何でもしりとりになっていなければ気が済みません。毎日の食事のメニューもしり通りの順で、最後はプリンと決まっていた。困った家来たちが知恵を絞ります。次の日の朝食には、何が出てきたのでしょうか?

●中村 翔子/作 はた こうしろう/絵 ●すずき出版/1,296円



★親子で声に出してことばのリズムを楽しみましょう

これはのみのぴこ

「これはのみのぴこ」から始まって、「これはのみのぴこのすんでいるねこのごえもん」のように、言葉が重なっていく絵本です。ページをめくごとに1文ずつ増えていきますが、文章にリズムがあってスラスラ読めます。早口ことばのように、単語で区切って、など、いろいろな読み方を試して遊ぶこともできますよ。

●谷川 俊太郎/作 和田 誠/絵 ●サンリッド/1,296円



★お子さんと一緒に笑いながら読みたいですね

せんたくかあちゃん

せんたくかあちゃんは洗濯が大好き。ねこもいぬもにわとりも洗っちゃう!すると、おへそをとりきたかみなりさまがおちてきました。そこでかあちゃんは…!?先の読めない展開に驚き、笑ってしまうことでしょう。絵が細かいところまで描かれているので、じっくり絵を見ながら読んでも楽しいですよ。

●さとう わきこ/さく・え ●福音館書店/972円



★気のいい奥さんたちの優しい騒動です

おかえし

たぬきの奥さんは、ひっこしてきたきつねの奥さんにイチゴをもらいました。何かをもらったらおかえしをしなくっちゃ。2人の奥さんはおかえしのおかえしを繰り返してしまい、どんどん家からあげるものがなくなっていく、しまいには…。最後は不思議とまるくおさまるユーモアのあるおはなしです。

●村山 桂子/さく 織茂 恭子/え ●福音館書店/972円



自然を知る

自然の中の「ふしぎ」が、
わかりやすく表現されています。
読むごとに新しい発見があるでしょう。



★しずくになって、空へ、川へ!

しずくのぼうけん

むらのおばさんのバケツからとびだして、一人で旅に出たしずく。おひさまの光をあびて、蒸発して雲になったり、雨になって地面に降ったり、岩の割れ目で氷になったり。じゃぐちをひねれば出てくる水が、いろいろな場所を旅していることが分かります。文章が手書き風の文字になっていて、しずくの絵日記のように読める1冊です。



●マリア・テルリコフスカ／さく うちだ りさこ／やく ボフダン・ブテンコ／え ●福音館書店／972円

★どアップのバッタの顔に引き込まれます

アリからみると

小さなアリの視点で、草むらの昆虫たちを間近に撮影した写真絵本。バッタの脚のトゲやカミキリムシの複眼など、肉眼で見るよりもはっきり細部まで見ることができます。接写をしても背景がぼやけない特殊レンズで撮影されており、自然が生み出す色彩や形態に、虫好きでなくとも感心させられます。



●桑原 隆一／文 栗林 慧／写真 ●福音館書店／972円

★身近な野菜の意外な形に興味をひかれます

やさいのおなか

最初に、白黒で示される野菜の断面図。「これなあに」とクイズ形式で進みます。ページをめくると、彩色された断面図と、答えの野菜の絵が写実的に描かれています。野菜を切った中身をおなかと表現しているところがユニーク。いつも見慣れた野菜の意外な形を知ることができ、親子で楽しめます。



●さうち かつ／さく・え ●福音館書店／1,080円

★冬の木の芽が歌っているよ

ふゆめ がっしょうだん

顔のように見える、冬の木の芽たちが語りかけてくる写真絵本です。どれも表情豊かで、冬の自然が見せる姿に驚かされます。読んだ後は、きっと春が待ち遠しくなりますよ。子どもと一緒に、部屋で写真を見ながら楽しむもよし、外に出かけて探すのもよしの絵本です。



●富成 忠夫、茂木 透／写真 長 新太／文 ●福音館書店／972円

★雪の日のおたのしみ

ゆきのかたち

雪のいろいろな形や模様を紹介する写真絵本です。雪を見慣れている人でも、こんな模様があるのか、こんな形があるのかと、新鮮な驚きがあります。美しい写真で、雪の神秘を再発見しませんか。寒い雪の日だけのおたのしみを探しに出かけてみてもいいですね。



●高橋 健司／監修 片野 隆司／写真撮影 ●ひさかたチャイルド／1,080円